

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京極幼稚園)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価				
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						評価日 平成28年2月25日		評価日 平成28年3月9日				
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価者・組織 評価委員会		評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員				
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改 善に向けた支援策			
1	主体的な遊びや生活	目的をもった遊びや生活を進める力 遊びを作り出し、展開するための環境構成 週案の活用と見直し	・子どもと遊びや生活の振り返りの時間をもつ。 ・記録やエピソードを書く 子どもと教師が作る場の構成、季節感のある環境。 PDCAが明確な週案の作成。	・喜んで登園し、楽しい幼稚園生活を送っていると思いますか。 ・園内研修の施設幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境が整えられていると思いますか。 担任と園長がねらいと内容の整合性、援助の具体性を確認する。	⇒	「あてはまる」という回答率100%。エピソード研修を講師を招いて行った。 保護者の「あてはまる」という回答率100%。行事の見通しを立てて保育の計画を立てた。 園長が週案にコメントを記入し、整合性や具体性について担任と話し合った。	・子どもたちは幼稚園が好きで遊びや生活を楽しんでいると保護者は満足している。教師は見通しを立てて保育を行うようにしたが、週案でのねらいと具体的な支援が結びつかないでいたことが課題である。 ・エピソード研修は4回行い、教師のねらいや子どもの育ちを考察できた。	⇒	・指導計画や週案などを見直す機会と、実践を振り返る機会を園内研修でもつ。 ・子どもの実態に即したねらいと経験させたい内容が、実際に保育室の物的環境に表れているか、教員間で研修する。 ・園内研修の主題に迫ったものになるよう、エピソードは研修のたびに書き直す	⇒	・生活発表会では子どもの発想が感じられて、一人ひとりの育ちがよく見えるものであった。 ・最近はスマホなどが回り実体験が少なくなっているが、昔のように友達とのびのびと、やんちゃもできる幼稚園であってほしい。	・運動会、生活発表会を参観してもらい、感想や評価を聞く。 ・今の保護者と子どもの姿を幼稚園が伝え、時代を超えて幼稚園教育で大事にすることについて意見をいただく。
2	豊かな心	温かな幼児理解をもとにした学級経営 友達と協同して遊ぶ力 総合育成支援教育	一人一人を大事にするという教職員の意識作り 友達と互いに思いや考えを伝えあって遊ぶための教師の援助について研修する。 対象児の的確な実態把握と適した支援	教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていると思いますか。 「生活発表会/主賓が友達と心を合わせて取り組んでいると感じられましたか」 園内研修と園内入権研修。療育機関・児童養護施設との連携。	⇒	「あてはまる」という回答率が100%。 「あてはまる」という回答率が100%。年長児保護者ほど満足度が高かった。 各機関との連携を随時もち、その後全教職員に伝達研修を行った。	・保護者は教師の温かいかわりに、安心・信頼していることがわかった。 ・生活発表会の取組について保護者の評価は高いが、子ども同士で作る劇遊びの指導に課題があった。 ・療育機関(1月)、児童養護施設と連携(12月、3月)を取った。	⇒	・子ども間の力関係にも配慮し、冷やかしかやふざけなどの態度を注意し、どの子どもも集団生活を送れるようにする。 ・普段から子どもと遊び、環境を作るという基本を園内研修で再確認したい。 ・専門機関に今後も連携できるように、組織として計	⇒	・ひよこの誕生や死に触れる機会は大事である。幼稚園ならではの指導ができる機会である。 ・年長児の劇遊びでは友達の動きに合わせて、子どもたちが動いていたし、忘れ物を子どもが自分で取りに行っていた。友達と協力するということができていた。	・運動会、生活発表会を参観してもらい、感想や評価を聞く。 ・様々な経験を通して心が育つように、例えばお茶会体験を地域の方に継続して指導してもらう。
3	健やかな体	生活習慣の自立 危険なことに気付く力	水道やトイレなどで、手洗いなど方法がわかるように掲示物を貼り、自分でできたという自信をもつ環境の工夫。 子どもの動線と考えた安全な環境と自分の力を試すことができる環境の工夫。	自分でできることは、最後まで自分でしようとしていますか。 子どもの安全に配慮した教育活動を行うことができますか。	⇒	「あてはまる」という回答率が90%。 「あてはまる」という回答率が97%。	・前期と同様、家庭では子どもが自分のことが自分でできないと評価したのは年少児保護者であった。 ・施設遊具の安全について保護者は不安は持っていないが、教職員は整備点検が必要であると感	⇒	・大人の願いと子どもの様子にずれがないように目標を設定したり、「家庭教育の手引き」でおおよその発達の様子保護者に知らせる。 ・引き続き安全点検と倉庫やテラス周りの整備を行い、子どもの動線の安全を確保す	⇒	・共働きの家庭では、帰宅後の時間が短い、テレビをつけないで食事をするなど、親子での時間を大事にしていると思う。親の姿を見て子どもが自分ですようになると思	・親子で楽しめるような地域の行事に幼稚園にもお知らせいただき、親子の触れ合いを大事にする機会を作る。
4	独自の取組	保幼小連携の推進 家庭・地域との連携 子育て支援	地域の保育所、小学校との交流のための研修の実施。 日常的な家庭との連携・地域版での幼稚園教育の発信 預かり保育の記録の作成	・地域と進んで連携しその特色を生かした体験が、保育に取り入れられていると思いますか。 ・幼保および幼小交流の研修の実施 教職員は保護者の思いを受け止め、家庭と連携していると感じられますか。 ・預かり保育の利用実績 ・記録の作成状況	⇒	「あてはまる」という回答率が97%。幼保交流と研修を3回、小学校交流を2回行った。 「あてはまる」という回答率が100% ・長時間申請者以外に突発的な預かり保育申込者が増えてきた。 ・毎日記録が作成され、管理職が確認できた。	・幼保交流では事前・事後研修をもち教師間での連携が行われている。幼小交流でも同じように研修をすることが課題である。 ・家庭とは日常的な連携ができるが、地域との連携を図る必要がある。 ・預かり保育の記録を見直し、課題を見つけ検討する研修が必要である。	⇒	・幼保交流、幼小交流の回数は前年度を基本にして、内容の見直しを行いたい。 ・地域の刊行誌やホームページで外部発信に努める。 ・預かり保育の記録を整理し、遊びが充実するための遊具や過ごし方について見直す。	⇒	・保育所の子どもと一緒に遊び、顔見知りになることで子どもが安心して学校に通えるようになるのは良いことである。 ・地域への発信をもっとした方がよい。	・鶴山保育所の子どもと遊ぶと、切磋琢磨することができるので、交流を進めてほしい。

4 総括・次年度の課題